

景況レポート

(3月分・情報連絡員 80名)

県内景況は大震災の影響により大幅に悪化

～自粛ムードに懸念～

【概況】 3月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが8.8%(前月調査12.5%)、「悪化」が67.5%(同45.0%)で、業界全体のDI値は-58.7となり、前月調査と比較して26.2ポイント下回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-37.5で前月調査(-9.4)に比べ28.1ポイント下回った。また、非製造業全体は-72.9で前月調査(-47.8)と比べ25.0ポイント下回り、全体、製造業、非製造業ともにリーマン・ショックのあおりを受けた2009年2月以降、最大の落ち込み幅を示した。

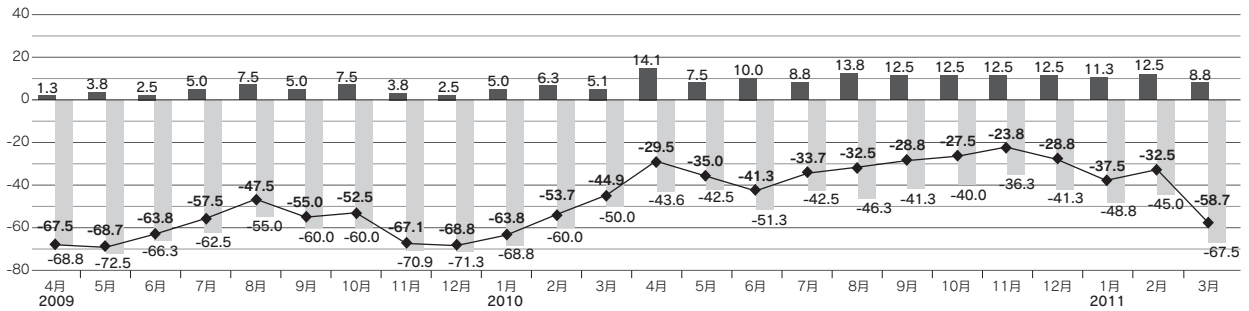
3月11日に発生した東日本大震災は本県産業にも深刻な影響を及ぼしており、一部特需の報告もみられるが、燃料不足や物流停滞によって雇用調整や休業を余儀なくされている企業も多く、自粛ムードによる消費低迷もあり、先行きが厳しい状況にある。
(回答数:80名 回答率:100%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種						
製造業						
非製造業						

【凡例】 快晴 30以上 晴れ 10以上 30未満 曇り 10以上 30未満 雨 30以上 雷雨 30以上
【天気図の見方】 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

- 味噌醤油醸造** 2月分の出荷量は、前年同月比で味噌が88.8%、醤油は99.5%で推移した。大震災後、県外品が入ってこなくなり、その分の注文が入って特需となった企業もあるが、宮城県にあった包装資材の生産工場が津波で流されてしまい、容器が入ってこないため出荷できなくなっている。
- 繊維製品** **【秋田市他】**大震災直後は東北から関東間の物流が止まっていたため、原材料の受入れ、完成品の納入が不確実になり、一部、西日本の工場へ発注を切り替える動きも見られた。物流が回復すると、今度は被災地の工場へ投入予定だった商品の生産依頼が増加し、一時的にキャパシティがオーバーとなっており、夏物の立ち上がりまでは各組合員企業とも忙しい状態が続くと思われる。
- 一般製材** **【横手市】**大震災の影響で、重油、原木他材料が入らず、従業員の賃金を全額補償して3月19日から30日まで工場全体を休業にした。そのため、売上は前月の半分になっている。関東地域の取引先の指示で集成材の受入が保留となっており、組合で保管している。
- プレカット** 大雪のため住宅着工が遅れていたが、4月後半以降の見積案件が増えてきた。大震災後、製材所からの受注が急激に増加して対応しきれない状態であり、加工賃も上昇している。
- 自動車販売** 3月の新車販売台数は、登録自動車が1,971台(前年同月比50.5%)、軽自動車が1,565台(同51.6%)で、合計3,536台(同51.0%)であった。大震災により物流が寸断されたため、新車の配送が出来なくなり、登録台数が極端に落ち込んだ。
- 石油販売** ガソリン1ℓ当たり146円で前月比10円引き上げ、軽油1ℓ当たり125円で前月比8円引き上げ、配達灯油は18ℓで1,671円と前月比92円の引き上げとなった。大震災によりガソリンの入荷が減少し、売上減少となった組合員が多数である。
- 商店街** **【鹿角市】**大震災による停電や物流の影響で組合員の売上は前年同月比で4～6割減少、観光業は8割の減少となり過去最悪の状況となっている。資金繰りが悪化して、雇用調整による解雇も行われている。
【能代市】大震災でお客様の購買意欲が低下してしまい、年度末の追い込みも叶わず、賑わっているのは食品スーパーとガソリンスタンドだけで、商店街は閑散としている。
- 旅行** 大震災の影響でどこも3月いっぱいには休業していたが、4月～6月の予約も9割が取消となり、どうやって食べていったらよいかわからない状況で、組合の存続も危うくなっている。歓送迎会の時期であるが、宿泊付の宴会予約も全てキャンセルとなり、潰れそうなホテルもある。せめて原発の事故がなければ、と考える。